



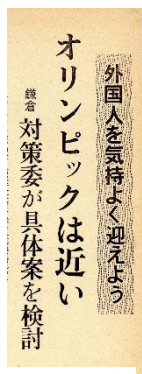
第18回 オリンピック東京大会 ～聖火リレーと鎌倉市の取り組み～

概要

アジア初の東京オリンピック大会は、昭和39年(1964年)10月10日から24日まで開催されました。開幕に先立ち、10月7日、鎌倉の町を聖火ランナーが駆け抜けました。多くの市民の声援を受けながら、地元の高校生115人も正・副走者や随走者として走りました。56年前の市内の盛り上がり思い出される方もいらっしゃると思います。市ではオリンピック対策委員会を結成し、川や道路の美化清掃に努め、花を植え、外国からの来訪者を通訳サービスを準備して迎えました。オリンピックの期間に流鏑馬や静の舞奉納など協賛事業も行いました。当時、市役所は2年前の火災の被害から立ち直ろうとしていた時期でした。今回、当時撮影された写真や鎌倉市広報・個人蔵資料・新聞記事をもとに振り返ります。

鎌倉市の取り組み

「鎌倉を訪れる外国人を気持ちよく迎えよう」
「日本人を正しく理解してもらおう」
「町の整備や美化に力を入れ住みよい鎌倉をつくろう」



(広報かまくら 昭和39年(1964年)1月1日号)

当時、1万人の選手役員と約10万人の観光客が外国からくることが予想されている中、観光地である鎌倉市では、市内の団体や学識経験者などの協力を得て「鎌倉市オリンピック東京大会対策委員会」を設置し、その対応策を検討しました。

通訳奉仕団①

外国人観光客に対応するため、鎌倉市通訳奉仕団はオリンピック通訳奉仕員を募集しました。市内在住の英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の奉仕員23名が、9月15日から活動を始めました。写真は結団式の様子。



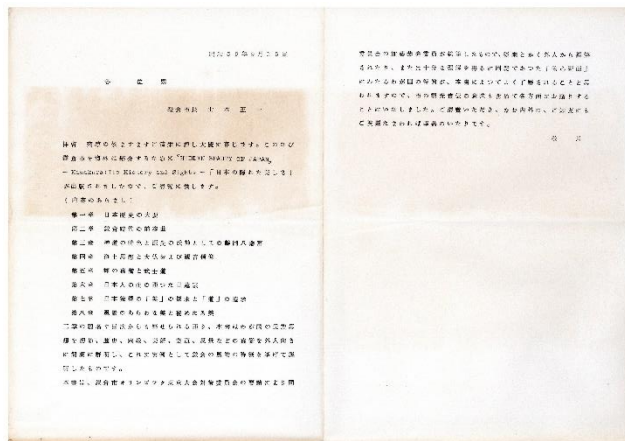
通訳奉仕団②

旧市役所第四分庁舎(現鎌倉生涯学習センター)に設けられた案内所。案内所では1日4～5人体制で外国人観光客らに対応しました。



看板①

大仏入口、江ノ島に近い腰越海岸、大船観音に「WELCOME KAMAKURA」の歓迎塔を設置し、オリンピックムードを高めました。写真は長谷の大仏前にて。



看板② 腰越海岸



（発行にあたり山本市長の挨拶文）

町の美化

市内15地区から30名を選出し、美化実施本部を設置し、各地区ごとの美化運動を進めました。

① 広報かまくらで呼びかけ



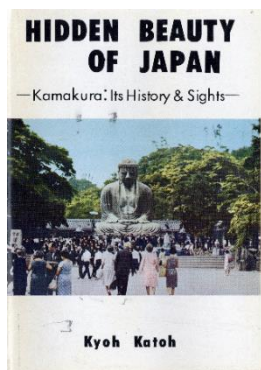
（広報かまくら 昭和39年（1964年）4月4日号）

英文ガイドブック

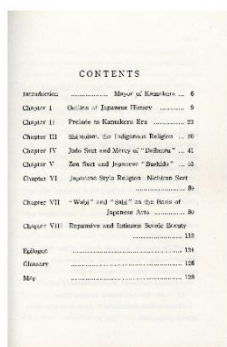
『HIDDEN BEAUTY OF JAPAN』発行

鎌倉市オリンピック対策委員会は外国人観光客に向けて英文の「鎌倉名所史跡観光ガイドブック」B6版4000部、130ページを作成。2000部は400円で市販。

著者 加藤恭亮（日本ガス化学顧問、元海軍技術少佐）
撮影 安田三郎（鎌倉国宝館）



（表紙）



（内容）



（広報かまくら 昭和39年（1964年）9月16日号）

② 推薦美化標語

「よごすまい この道 この川 この広場」



(広報かまくら 昭和39年(1964年)9月16日号)

③ 鎌倉駅東口にあったロータリーを始め、市内各地が花で飾られました。



(広報かまくら 昭和39年(1964年)9月1日号)

大仏に観光案内板

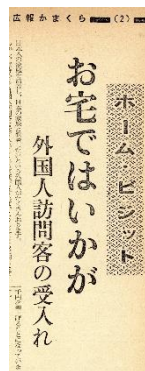
声の出るジオラマ式国際観光案内板を建設。



(広報かまくら 昭和39年(1964年)8月1日号)

ホーム・ビジット・システムと民泊募集

日本人の家庭を訪問したいという外国人客のために受け入れ側の家庭を登録しておき、いつでも外国人客の希望にそえるように準備しました。ホーム・ビジット・システムは短時間の滞在で県の観光対策協議会が主体となり鎌倉市はその取次業務を行い、民泊は鎌倉市独自の取り組みでした。



(広報かまくら 昭和39年(1964年)2月1日号)

静の舞と流鏝馬

鎌倉市と鎌倉観光協会が共催し、オリンピック開催中に鶴岡八幡宮で「静の舞」と「やぶさめ神事」を臨時に催しました。

湘南有料道路(現国道134号線)が全線開通 片瀬江ノ島ー逗子間

オリンピック直前に鎌倉滑川ー逗子間が完成し、10月8日に鎌倉市中央公民館(注)にて開通式が行われました。この道路工事については次々に反対運動が起こり、完成まで13年間もかかる難工事でした。料金は、逗子・鎌倉両区間ともそれぞれ普通自動車(乗用、貨物とも)50円。小型自動車(乗用、貨物とも)30円。

(注)…現在の鎌倉警察署

聖火リレー

昭和39年(1964年)10月7日午後12時半頃、鎌倉の町を多くの市民の声援を受けながら地元高校生による聖火ランナー115人が駆け抜けました。鎌倉市は腰越橋で藤沢市から聖火を引き継ぎ、湘南有料道路(現国道134号線)料金ゲート前～市営プール前～江ノ電長谷駅前～中央公民館(現鎌倉警察署)前で中継し、小坪の姥子台で逗子市にバトンタッチしました。市内の所要時間は約1時間でした。

聖火リレー①

腰越橋から始まった市内のリレーは、翌日10月8日に全線開通を控える湘南有料道路（現国道134号線）の料金ゲート前を通過。



聖火リレー④

若宮大路下馬四つ角の交差点を右折して、中央公民館（現鎌倉警察署）前の中継点に向かう聖火ランナー。



聖火リレー②

聖火は稲村ヶ崎を越えたのち、稲瀬川手前からいったん海岸線を離れ長谷観音方面に向かう。



聖火リレー⑤

正走者の後を副走者・随走者が続く。この先海岸橋を通過して小坪トンネルに向かっている。

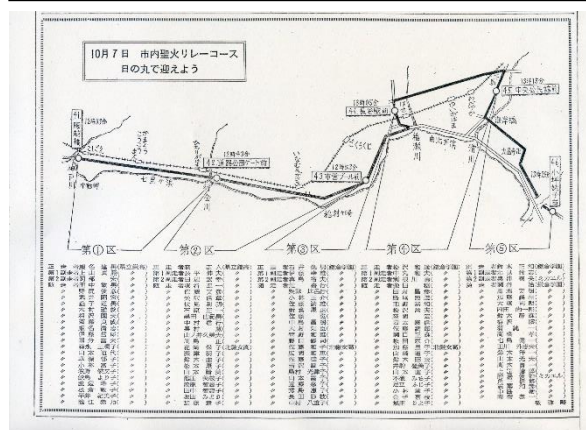


聖火リレー③

由比ガ浜通りを長谷方面から下馬方面に向かう。



市内聖火リレーコース
（広報かまくら 昭和39年（1964年）9月16日号）



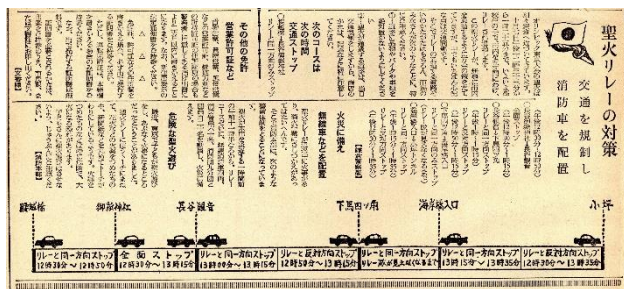
聖火リレーの予行練習

昭和39年(1964年)5月27日には、聖火リレーの予行練習が行われた。写真は、中央公民館(現鎌倉警察署)前に並ぶ高校生ランナー。



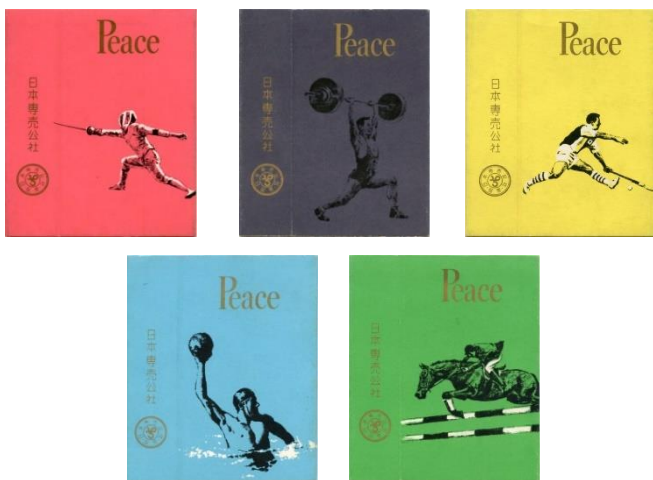
聖火リレーの交通対策

コース内の交通を規制し、火災に備え無線消防車、消防署員、消防団員を動員しました。



(広報かまくら 昭和39年(1964年)10月1日号)

記念グッズ



東京オリンピック記念ピース(煙草)外箱
昭和39年(1964年) (個人蔵)



東京オリンピック特殊往復乗車券
昭和39年(1964年)10月23日 (個人蔵)

思い出の品

東京オリンピックで式典担当を務めた市内在住の方の思い出の品です。当時、氏は東京都の職員としてオリンピック組織委員会に出向していました。組織委員会は国立競技場の事務所にあり、式典担当は各国の国旗の管理や入場行進の先導役をつとめました。氏はスペイン選手団の担当でした。この記念品は、本番の1年前(1963年)に開かれた「プレオリンピック」バッジ及び本番での組織委員会身分証明書。岡本太郎デザイン記念メダル、式典委員バッジ、ワッペン、英語通訳用バッジ、記念コインなどです。

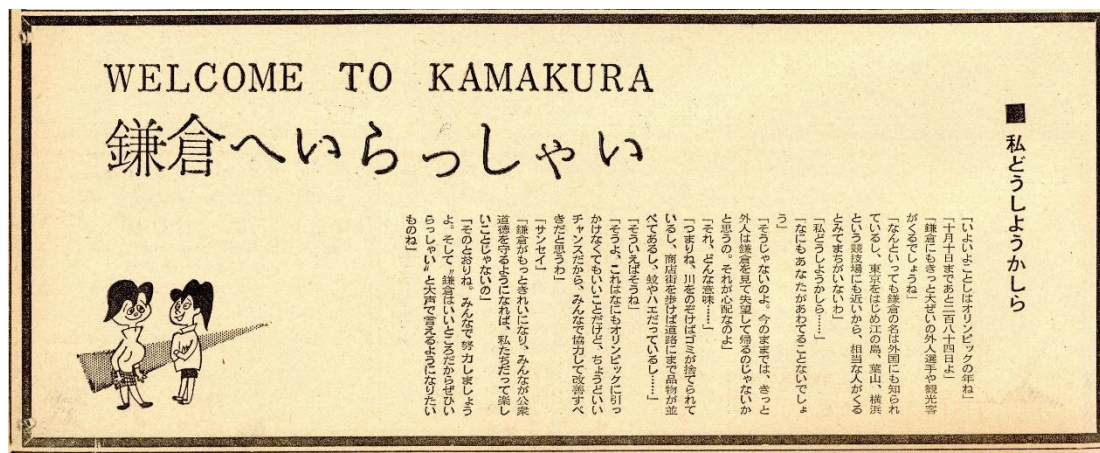


昭和39年(1964年)オリンピック東京大会に関する新聞記事

■広報かまくら

1月1日	外国人を気持ちよく迎えよう オリンピックは近い 鎌倉対策委が具体案を検討 (内容) 具体的な問題として、 ① 外人向け観光案内板の設置 ② 仮設の案内所の設置と案内人の確保 ③ 案内パンフレットやガイドブックの作成 ④ 歓迎アーチの建設 ⑤ 「サービス講習会」や「オリンピック理解の講演会、映画会」の開催 ⑥ 花いっぱい運動など町の美化装飾の推進 ⑦ 外人の民間宿泊についての対策 ⑧ 道路清掃、河川清掃など環境浄化の徹底 ⑨ 空地や未利用地などの清掃美化 ⑩ 公衆便所の増設と清掃美化 ⑪ ハエ、蚊などの駆除の徹底 ⑫ 野犬の捕獲、犬のふんの清掃処理 ⑬ 民間組織などの美化運動を援助推進 ⑭ 伝染病予防や食中毒防止の運動の指導徹底 ⑮ ごみ箱、吸殻入れなどの増設 ⑯ 駐車場や道路の整備などの交通緩和対策 ⑰ 市民の公德心や商業道德などを高める運動の実施 急ぎのものから順に実行していく オリンピック随想 「さすが鎌倉市民 佐藤秀三郎(鎌倉市体育協会長・オリンピック東京大会対策委員会副委員長・材木座在住)」 オリンピックを一つのチャンスとして鎌倉の名を鎌倉市民の名を大いにあげるよう努めたい WELCOME TO KAMAKURA 鎌倉へいらっしゃい ■私どうしようかしら
2月1日	ホーム・ビジット お宅ではいかが 外国人訪問客の受入 「短時間滞在と民泊の受け入れ家庭を募集」 オリンピック短信 ・聖火リレーコース・県下で行う競技種目・入場券の当選番号が決まる ヨット会場は江の島と葉山各ヨットハーバー
4月4日	あと半年 日の丸の国日本に世界中の人がやってくる この鎌倉にもやってくる 「紙はくずかごへ」 オリンピック随想 「蒔かぬ種は生えぬ 梶岡智(鎌倉市オリンピック対策実行委員・鎌倉市医師会長・大船中央病院長)」 文化日本の姿を期待して来訪する外国人客に失望を与えることがあってはならないだろう

	オリンピック特別電話番号簿
5月1日	オリンピック随想 「材木座とオリンピック 福井孝一（材木座神明町自治会会長・日本陸上競技連盟顧問・鎌倉市体育協会副会長・鎌倉交響楽団委員長）」 フランス柔道応援者 140 名を材木座光明寺で迎えるにあたってベストを尽くしたい
7月1日	オリンピックに備えて通訳奉仕員を募集
8月1日	大仏に観光案内板 オリンピックに備え諸施設の工事進む ① 観光案内板 ②通訳奉仕員の詰所 ③公衆便所
9月1日	あと 40 日 町かども心も花いっぱい。善意の花でオリンピックを迎えよう。
9月16日	希望の火 鎌倉へ 聖火が鎌倉に近づいてきました きれいな町にして迎えましょう 10月7日市内聖火リレーコース 日の丸で迎えよう よごすまい この道 この川 この広場 推進美化標語 オリンピックを機会に美化運動をさらに前進させよう オリンピックは勝つこと ふだんの鍛錬とフェアプレーで 熊谷一弥（テニス選手。日本で最初のオリンピック銀メダリスト）
10月1日	聖火リレーの対策 交通を規制し消防車を配置 火災に備え無線車などを配置 日の丸を掲げよう スポーツだより 聖火リレーのコースと声援のお願い



（広報かまくら 昭和39年（1964年）1月1日号）



（広報かまくら 昭和39年（1964年）10月1日号）

■神奈川新聞

9月4日	英文ガイドブックできる 鎌倉市、五輪外人客にサービス
9月10日	五輪客にヤブサメを 9月14日から鶴岡八幡宮例大祭 今年は10月21日再びヤブサメと「静の舞」を上演
9月11日	休まないのを原則に 五輪授業対策 鎌倉市教育委員会で検討 湘南の海、一斉清掃 婦人や中学生など総出で
9月12日	高まる五輪ムード 宿舎の寺 修理に大わらわ 鎌倉 ・大仏入口、腰越海岸、大船観音に「ウエルカムカマクラ」の歓迎塔設置 ・有料道路滑川尻に鉄筋二階建ての超デラックストイレ建設 ・鶴岡八幡宮境内に公衆トイレの建設 ・フランス柔道応援団を光明寺で1週間合宿受け入れ（昼張替え、シャワー設置等）
9月18日	五輪直前に開通式 鎌倉ー逗子湘南有料道路 10月8日朝開通式に予定
9月23日	聖火・来月6日本県入り 国内・県内聖火リレーコース
9月28日	ルーマニア選手団鎌倉見物
9月30日	タイ選手は鎌倉見物 マツをバックに記念写真
10月3日	聖火、七日に湘南へ 鎌倉入りは12時28分
10月4日	県内聖火リレー 第1コース全面通行止め 熱狂的歓迎考え 機動隊フルに大警備
10月5日	通訳団勢ぞろい 鎌倉外人客待つだけ
10月7日	有料湘南道路が全線開通 すぐ五輪道路で活躍 逗子区間が完成 あす盛大に開通式 10月8日午前10時半から鎌倉中央公民館にて
10月8日	鎌倉の蝦名君兄弟仲良く重責果たす 聖火リレー 聖火 沿道に熱狂的歓迎 第二コースタやみの横浜入り 第二コース 市営プール前からハトが舞い立ちお祝い気分を盛り上げる
10月9日	五輪寸前 めでたく開通 滑川ー逗子間の有料道路 10月8日午前10時半から鎌倉市中央公民館にて開通式
10月10日	アーチ建て、畳がえ フランス応援団迎える鎌倉光明寺 フランス柔道選手団の応援団迎える 史都鎌倉を世界へ 「やぶさめ」など臨時開催 鎌倉市と鎌倉観光協会が共催し鶴岡八幡宮で10月18日「静の舞」と22日「やぶさめ神事」を臨時に催す
10月13日	観戦の鎌倉二中の生徒たち（横浜文化体育館）
10月16日	鎌倉の通訳団詰め所好評 利用者すでに450人 喜ばれるサービス精神
10月19日	鎌倉へフランス柔道応援団 お寺に住めてうれしい 光明寺で39人宿泊 地元の人たち300余人が大歓迎で出迎え

番外編

聖火リレー スナップ



鎌倉市のスタートは腰越から。大勢の人々が聖火を送り出す。



坂ノ下にて。オリンピックは何十年経っても子どもたちにとって貴重な思い出。



正面は長谷寺。現在の鎌倉文学館入口あたり。



峰ヶ原バス停付近。この時だけは仕事中的人も手を休めて聖火リレーを待つ。写真中央の宅造中の山には松林が残っている。



第4区の横浜銀行長谷支店前(収玄寺横)。ここから長谷～由比ガ浜通りを駆け抜ける。



聖火リレーが通り抜けた後の下馬四つ角の混雑。

「第18回オリンピック東京大会
～聖火リレーと鎌倉市の取り組み～」
発行 鎌倉市中央図書館近代史資料室
発行日 令和2年(2020年)8月1日